

住信為替ニュース

THE SUMITOMO TRUST & BANKING CO., LTD FX NEWS

第2084号 2011年10月3日(月)

《 still very uncertain 》

引き続き不安定な相場展開が予想される。先週は株価が世界的に週の半ば過ぎまで堅調に推移していたが、週末金曜日の海外市場では全面安になった。ギリシャに対する融資の体制に関して少し楽観的な見通しが出たにせよ、一時の安心であることは明確だし、アメリカ経済の状況も少々の良い統計の積み重ねでは本当に自信が持てる状況ではない。今週は週末に雇用統計の発表も控えていて、市場はそれを睨みながら、そして終息の全く見えないギリシャ支援の動きに一喜一憂しながらの展開になるだろう。

ギリシャ問題について言うと、先週は最大の抛出国であるドイツ議会が、EFSF（欧州金融安定基金）への出資を従来の1230億ユーロから2110億ユーロに拡大する政府提案（ドイツ出資分）を圧倒的多数で可決したことから、同基金発足への楽観論が強まって世界の市場は好感した。しかし、依然として欧州で数カ国の国がこの基金への増額出資の議会承認を経なければならない。その中にはギリシャより人口が約半分で、国民一人当たりのGDPがギリシャの半分以下のスロバキアも入っている。当然ながら、「自分達より豊かな国の救済に乏しい資金をなぜ出さなくてはいけないのか」という同国内部（政治家を含めて）の意見は強い。

加えて、この週末に明らかになったのはギリシャが政府の緊縮策以外のところで、融資要件を同国が満たせない可能性があることです。ギリシャでは山猫ストという違法スト、予想外のストが続いているとされる。その結果、融資実行に必要なトロイカ側（EU、ECB、IMF）の統計資料が揃わない事態が発生しているという。筆者はこれを今週末の欧米の新聞で知った。同国を巡る環境がいかに厳しいかは、「ユーロ圏から追い出されたら通貨の価値は半分ほどになり、かつてない貧困と失業に見舞われる」とするギリシャのシミティス元首相の発言がすべてを物語っている。

朝日新聞によれば同元首相は有力紙「カティメリニ」に寄稿したもののだが、同紙は「元首相からのSOS」と題して1面トップの扱いとなっているそうだ。ギリシャの先行きについては、日本の新聞もそうだが、「離脱したらどうなる」という仮定の話が盛んだ。それはそれだけ同国が追い詰められている証拠だが、シミティス氏は通貨がユーロからドラクマに戻ると1ユーロ＝600ドラクマ以上になる（2001年のユーロ加入時は1ユーロ＝340ドラクマ）とし、「人々は財産の多くを失い、社会不安が高まるだろう」と予測した。

依然として社会保障や年金の削減に反対してデモ、ストを繰り返す国民に対する警告の

意味があるにしても、政権与党の幹部の警告はそれだけ重いと云える。今後もギリシャ情勢は深刻な状況が続け、その中でも刻一刻の変化を見せるだろう。

大西洋をまたいだアメリカの状況も複雑だ。先週も取り上げたFRBの内部や政界での“哲学論争”に加えて、国民の「制度批判」が徐々に高まっている。これら若者はこの週末にはマンハッタンにかかるブルックリン・ブリッジ（マンハッタンにかかる橋の中では象徴的な橋）を占拠し、700人の逮捕者を出したという。「国民の1%の人間が99%の富を保有している」「我々にも職を」といった主張を掲げているという。「アラブの春」のアメリカ版になると予測する人も居る。

この運動は米資本主義のメッカであるウォール街を物理的に占拠しかねない勢いであり、アメリカを見る世界の資本の眼も厳しくなる可能性がある。

《 changing Russia 》

今週からタイミングを見て数回に渡り、私の「ロシア報告」を掲載します。2011年の9月8日から18日まで短い期間だが私として今まで1度も足を踏み入れたことがなかったロシア（旧ソ連）の地を訪れた。成田からウラジオストックに飛び、そこで一日滞在した後にシベリア鉄道に乗り、ハバロフスクを経由してシベリアの中心都市イルクーツクに行き、そこで日本人墓地にお参り。あとバイカル湖を見て今度は飛行機でサンクトペテルブルクに行くという往路。帰りはサンクトから飛行機でウラジオに飛び、そこで国際線に乗り換えて成田に帰る、というルート。

直前にロシアで飛行機が落ちたし、ロシアの国内政治情勢（チェチェンなど）も不安定でテロが起きていることなどほんの少し頭をよぎったが、話が持ち上がった段階で直ぐに決めた。

今回は、10日間のロシア視察で得た情報のまとめです。項目別で描き出します。非常に大きな括りで言うと、今回の旅でロシアに対して今まで自分が持っていたイメージや情報に新たに大量の記憶と印象、それに情報が加わり、見方も大きく変わった。良いとか悪いではなく、「ロシア理解の複雑性が増した」という表現が正しいかも知れない。

1. まず2011年のロシアは、世界でも類を見ないような「大量消費社会」に突入していた。何せモノが溢れかえっているのだ。モノを売っているお店（スーパー、市場、デパート）などに機会があるごとに入ったが、「家庭で必要とするもの」は多種多様に、かつ実に豊富に置かれていた。特に食材は凄まじかった。量では完全に日本を上回る。日本のように食品がキラキラ輝いているということはない。魚の売り方も雑だ。しかし、量と種類は凄い。サンクトペテルブルクにカルティエがないなど、まだアンバランスはある。しかし、ソ連の時代の「商店に何もなかった時代」は過去だし、90年代に聞いていた供給の不安定さは完全に消えたように思えた。社会の不安もだいぶ解消し、ある種の秩序が戻っていた。ロシアの今は、「完全大量消費社会」だ。人々

の消費活動は過去への反動かも知れないが、実に活発に見えた

2. それとの関連で言うなら、ウラジオストックでもイルクーツクでも、そしてサンクトペテルブルクでも道には車が溢れかえっていた。二種類ある。路上駐車と走っている車。事故が多発し、渋滞が激しい。ロシアでは「車庫証明が要らない」から、都市の許容量（駐車スペース、道路の量）に関係なく車が増える。行った三つの都市とも、「車の数は許容量」を明らかに超えていた。にもかかわらず車は増え続けている。結果、道という道に車が奇妙な形で駐車している。縦だったり、斜めだったり、直角だったり、二重、三重だったり。車がそれぞれあさっての方向を向いているケースもある。地下駐車場も、機械式駐車場も見なかった。我先にと道路脇に駐車する。もう限界だろう。だから駐車場ニーズは高まる
3. 大量消費社会だが、一人当たり GDP で1万ドル（日本の四分の一）のロシアは、まだ開発途上国である。ウラジオストックに入った瞬間からサンクトペテルブルクに到達するまで、日本に居るときよりも鼻の中がかなり黒くなった。明らかに極東とシベリアの空気は日本より悪い。どこでも車は土埃だらけ。ウラジオストックなど東海岸、それに極東部分は殆どが日本車（かつ中古車）、西に行くほどドイツ車が少しずつ多くなるなど変化はあるが、シベリアは道路の整備具合もいまいち。「田舎が貧しい」というのが私の「開発途上国」の定義だが、その範疇にロシアは入る
4. しかしサンクトペテルブルクは極東やシベリアとはかなり色合いが違う。そこは明確に「ヨーロッパ」だった。ロシアの皇帝達がヨーロッパを取り入れたくて作った街だから当然だが、それよりも人々の立ち居振る舞いが欧州的で、街も洗練されている。見所も沢山ある。東と違って、車も完全左ハンドルとなる。たまたまかもしれないが、空気も澄み渡っていた。西と東のロシアはそれほど違う
5. 旅を通じて印象に残ったのは、ロシアの男達の「俺は～～～に不満がある」という憂鬱顔だ。彼らが声を高くして談笑する姿はほとんど見なかった。酒を飲みながら、静かに話す。挨拶もあまりしない。これについては、後で考察する。シベリアの女性はとても太った人も多かったが、微笑み返す余裕のある人が多かったように思う。サンクトペテルブルクの女性はスキニーでお洒落だ。ロシア全体で女性に元気と活力がある。なぜそうなのか？
6. ロシアは実に多様な人種が住む。イルクーツクだけで数十とターニャ（同地のガイド）が言ったような気がする。数え方にもよるのだろう。もともとブリヤートなど原住民と比較的平和裏に生活を築いてきた。加えて、「ロシア人は賃金の低い仕事はしない」（ターニャ）と言う中で、中央アジアからの働き手を多く招き入れてきた。しかしそれがロシアの西、特にモスクワなどで「俺たちの仕事を奪っている」と主張する若者達の過激な行動に繋がっている。サンクトペテルブルクの空港の出発ロビーでは数多くの出稼ぎ労働者を見た。人種的平和がいつまで続くのかには疑問も残る
7. ロシア社会の中であって、豊かな層は確実に生まれている。それも飛び抜けて豊

かな。サンクトペテルブルクではハマーのストレッチを見た。私はアメリカでも見たことがない。彼らが豊かになるプロセスには、疑惑の部分（中国でもそうだが、体制が切り替わる際の国家の富や権限を不法な方法を含めて摂取・利用したもの）と、人々の資本主義に対する無知（例えば”株”に対する）を利用、ないし先見の明をもって取得した部分がある

8. 社会は変わり始めている。イルクーツクの市長選でモスクワ推奨の人を現地のビジネスマンが破ったりもして、静かな市民革命の萌芽も見られる。しかし国全体としてみれば、依然として強権的な、西側の民主主義国から見れば異質な社会を形成しているのがロシアだ。旅行者の我々にも、ロシア社会が持つある種独特な緊張感が時として伝わる。寒いとか、KGBを恐れて自由な発言が出来なかった過去や、いろいろな要素があるのだろうと思う。田舎に行けば行くほど、ロシア人は海外からの旅行者をじっと見ている
9. 食事は、予想していたよりはましだったが、多様性はやはり日本の比ではないし、一つ一つの味付けも塩とか燻などにやや偏りが見られる。サラダは何故か知らないが細いスティック上に切り刻んだものが極東とシベリアでは出てきた。バーニャカウダではない。その上にドレッシングが既に薄くかかっていた。ちょっと塩辛い。旅行中一回も「ドレッシングを選ぶ権利」を行使できなかった。サンクトペテルブルクでは慣れ親しんだ葉っぱのあるサラダだったが、それでもドレッシングは既にかかっていた。いくつかの店のボルシチなどは”ナイス”と思ったが、かなりのケースにおいてロシアのロシア料理は改善の余地ありだ
10. 時々「エネルギー亡き後のロシア」を考えていた。90年代の混乱期を経てロシアが再び注目される国になったのは、「石油、天然ガスなど豊かな資源を持つ」という理解だったが、今回それに「大量消費社会」が加わった。「大量消費社会」には、何もお店には無かったソ連時代や混乱の90年代の反動もある。資源をロシアは対ヨーロッパや対中国、日本で武器にした。しかし、それらはいつか枯渇する。「どうする」が今の政権の一つの課題だ。ロケット技術など非常に高い技術、人材を持ちながらも、ロシアに世界に誇れる工業製品はない。イギリスを見ても、アメリカを見ても、世界に誇れる輸出品があってこそその高い生活水準の維持だ。ロシアにはまだ「それが出来る」という確信が私にはない。車にしろ何にしろ、凄まじい輸入品天国だ
11. ロシアの古き建設物をまじまじと見ると、驚くほど荒削りだ。特に極東、シベリアでは何の建造物であれ、細部を見ると凸凹している。気にならないのだろうか。イルクーツクで泊まったホテル（まあ実態はロッジ）の廊下は歪んでいたし、ドアもようやく閉まっているという状態。カーテンレールはなく、木の棒にカーテンが結びつけられていた。多分シベリアの昔の「なるべく釘を使わない工法」にこだわったのだろう。しかし、あれほどそこら中が歪んだ家屋を建てなくても良いのに」と思う
12. 私のHPを出来るだけ更新していたので、それを見た人から旅行中にいろいろメー

ルを頂いた。「昔はエレベーターが途中で止まった」などの話が一杯入ってきた。「仕上げ」「ファイナル・タッチ」というものはロシアの大地には無いような気がした。おおよっぱというか、冬が直ぐ来るので「とりあえず寒くなければ」という印象が強く残っている。としたら、ドイツや日本に見られる「職人の技」には遠い。宮殿なども、イタリアなどから来た職人、有名な設計者が作ったという。となれば、先々世界に工業製品を売る国になるのは難しいだろう。我が家にもロシア製の工業製品は一つもない。しかしロシアの人々の識字率、インテリジェンスは高い。教育の普及の成果だ

- 1 3. ずっと考えていたのは、この国のでかさだ。ウラジオストックでシベリア鉄道に乗って、四日三晩でやっとシベリアの中心のイルクーツクに着く。同鉄道でモスクワに行こうと思ったら、そこからまた四日だ。列車のスピードが遅いと言っても途方もないでかさと距離だ。サンクトはモスクワよりまだ西だ。東西に広いだけではない。厚みもある。人も住まない北極圏から中国、モンゴル、そして中央アジアの諸国、そしてヨーロッパの北まで。途方もない広さだ。日本の4 5倍の国土を誇る
- 1 4. 懐も深い。ナポレオンもヒトラーも寄せ付けなかったのは、国土としての、また民族としての懐の深さだと思う。ロシアの冬はとてつもなく寒い。風も酷い。国土のでかさ、懐の深さの中で敵軍が呻吟している間に確実に冬が来る。ロシアの勝利はその時点で確定する。どの国の軍隊もみんな南から来るのだから、ロシアの「冬将軍」には勝てない。つまりこの国は、通常戦力で攻撃してもいかにともしがたく強い。核で攻撃しても、世界一の国土で、懐の深さはある
- 1 5. 地球が寒冷化したら、ロシアは真っ先にその打撃を被る国だ。しかしそうでもない限り、例えば温暖化したらロシアの大地にいろいろ問題は起きるが、サバイブできる国だと思う。そしていろいろな条件を想定してみても、「北の憂鬱」を抱えながらも、この国は残るだろう、と思わせるところがある

《 worst quarter since …… 》

以上は私のラフな印象です。この紀行で2回も為替ニュースを休みましたので、少し情報提供します。次回以降に、私が特に印象に残ったことを書きます。

今週の主な予定は以下の通りですが、先週の金曜日に終わった四半期は金融市場にとっては「リーマン以来の最悪」として記憶に残る四半期だった。株は世界的に殆どの指数が2008年秋のリーマン・ショック後以来の悪いパフォーマンスになった。さらに9月に入ってからの世界のマーケットの特徴は、それまで上がっていた金相場や商品相場、さらには穀物相場まで大きく下げた点。銅や穀物の相場など、四半期の終わりにかけて酷い落ち方をしているし、無論金相場の下げもきつい。信頼度の高い国（アメリカ、ドイツ、日本など）の国債を除いて、資金は株などの有価証券から逃げ、そして商品からも逃げている。

これはもう、「キャッシュ化」と言って良い状況で、世界のマーケットの大きな特徴とな

っている。むしろ、この動きが永遠に続くわけではない。しかし「まだ出口が見えない」というのが実情だろう。

指標的に見ると、大きなものが多い。中国市場は週の大半で国慶節休みだが、アメリカからは9月ISM製造業景況指数、雇用統計などが発表される。マンハッタンのウォール街を中心に続く“社会抗議デモ”がいつまで続くのか、雇用統計をどう迎えるのかも注目だ。

10月3日(月)	9月日銀短観 9月自動車販売／軽自動車販売 米9月ISM製造業景況指数 米9月自動車販売台数 ユーロ圏財務相会合(ルクセンブルク) 休場／中国(国慶節)、韓国(建国記念日)
10月4日(火)	EU財務相理事会(ルクセンブルク) 豪金融政策委員会 バーナンキ米FRB議長が議会上下両院合同経済委員 会で証言 ラッカー米リッチモンド連銀総裁が講演 休場／中国(国慶節)
10月5日(水)	米9月ADP雇用統計 米9月ISM非製造業景気指数 休場／中国(国慶節)、香港(重陽節)
10月6日(木)	日銀金融政策決定会合(7日まで) ECB理事会 米新規失業保険申請件数 休場／中国(国慶節)、インド(ヒンズー教デサラ祭)
10月7日(金)	8月景気動向指数 白川日銀総裁記者会見 米9月雇用統計 ロックハート米アトランタ連銀総裁が米経済と財政能 力について講演

《 have a nice week 》

大分秋らしくなってきましたが、読者の皆さんの週末はいかがだったでしょうか。東京より車で3時間ほど北で週末を過ごしていたら、これが朝晩は寒かった。まだ紅葉は始まっていませんが、これからは東京もかなり寒くなると思われる。風邪などお気をつけ下さい。

ところで、アメリカでは既にポスト・シーズンが始まっているのですが、ことしもこれ

といった日本人選手の常時出場がない。バッターが出ていないからで、ピッチャーも先発がない。出てくるとしても上原とか「出場所不明」の選手が多い。これが寂しい。イチローは弱小チームに居ますから記録だけが楽しみだったのが、200本に16本足りないヒット数で終わり。残念だが、本人が「なぜかすがすがしい」と言っているのが救い。松井は成績も悪く、来季も不明。マリナーズとアスレックスの来年春の東京ドーム開幕が決まっているので、久しぶりに松井の姿を見たいのですが。

考えてみると、井口という選手はアメリカに行って直ぐにワールド・シリーズで優勝。対して福留は何年もアメリカで頑張っているけどワールド・シリーズの、というよりポスト・シーズンの声がなかなかかかからない。運不運があります。

それでは、皆様には良い一週間を。

《当「ニュース」は住信基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場見解を記したものであり、住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したものです。正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》